

文化遺産教育専修

奈良の特色である文化遺産を通じて、
 文化財の内容・技能を伝え活かす教育を創造します。

学びのポイント

1 高い専門性と 恵まれた環境

代表的な古社寺の世界文化遺産登録に象徴されるように、奈良は日本を代表する文化遺産と考古遺産の宝庫です。奈良という恵まれた環境を中心に据えて各授業やカリキュラムが構想されています。文化遺産の内容・技芸を積極的に生徒や地域社会に伝え、活かすことの出来る力量を持つ人物を育て、奈良の地で文化遺産教育を創造します。



2 文化遺産を理論・実践(実技)の 両面にわたって理解する

美術の教員免許を取得するグループと理科の教員免許を取得するグループとが一つの専修をかたちづりますが、専修科目は共通の科目群から修得し、波及的に他の教科と関連づけることもできます。教材として教科を横断する総合性をもつ文化遺産について、美術・理科などの教科内容を大事にしながら、学びの内容や技芸の水準をたえず向上させ、教科を超えた理解力・感性・洞察力・表現力を養います。

3 文化遺産を学ぶことで 現在・未来を見通す

文化遺産教育専修では、美術工芸史や、考古遺産も含めた環境や材質に関する自然科学への深い理解と、技法面・保存修復に関する豊かな能力・技芸を併せ持ち、文化遺産の真価を学校や社会に向けて発信し教育する力を備えた人材を養成します。文化遺産の理解・活用に不可欠な博物館に関する科目を一部専門科目に位置づけ、教員と博物館学芸員との人事交流がある現状にも応えます。

学びの領域

体験を重視しながら文化財を深く学ぶ3つの領域

文化遺産・文化財の模写、復元図・復元模造品の作成などを通じて、伝統的技法を継承し、日本文化の基調をなす造形活動の基礎を身につける美術工芸記録保存・制作。奈良をはじめとする日本各地の文化遺産や、その源流となるユーラシアの古代美術について、造形芸術学の観点から学び、実技体験にも裏打ちされながら研究の水準を深める日本・東洋美術史、科学の基本を学び、文化遺産・考古遺産の環境や材質の分析を通じて、文化財の保存と復元の研究を深化させる文化財科学の3つの領域があります。



文化遺産教育専修の授業スケジュール

【2回生前期の一例】 My Schedule

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1・2時限	板書実践指導		生徒指導・教育相談I(中等)		
3・4時限	外国語コミュニケーション(英語)	彩色材料論	造形芸術学特講	教育経営行政論	
5・6時限	教育方法・メディア(中等)	文化遺産科学I		博物館経営論	
7・8時限	体育実技II	博物館資料保存論			地学実験
9・10時限					地学実験



造形芸術学特講
 奈良時代盛期-江戸時代の各期に属する日本美術の展開を、名作の熟視を通じて会得します。



彩色材料論
 我が国の伝統的な絵画および工芸品について、正倉院宝物などの調査報告書等によりながら、種々の材質等について学びます。

Student's Voice 在学生の声

「古都奈良でしか体験できない貴重な学びを」

文化遺産専修2回生
辰上 亜弥子さん
 (私立ノートルダム清心高校出身)



文化遺産教育専修は、各学年10人にも満たない少人数の中で理科専門と美術専門に分かれて学んでいます。教員養成のカリキュラムと、文化財の古都奈良の文化財に触れる専門的な授業を受けます。加えて、学芸員資格の実践的な実習と授業、研修や調査、ゼミで各専門の先生方の指導を受けることもでき、日々、古都奈良の文化遺産を教育に活かしていこうと励んでいます。素晴らしい薫陶を受けながら、古都奈良において己の興味を追求できるこの大学で学んでいきましょう。

主な開講科目

地域と文化遺産教育/文化遺産科学/ユーラシア美術史/彩色材料論
 文化遺産特論I(考古学)/文化遺産特論II(建築史)/日本工芸史/地質学
 工芸理論特講/保存科学演習/アジアの中の日本美術史/造形芸術学特講

取得できる免許状

・中学校教諭一種(美術または理科)等
 (P.6,7「取得できる免許状・資格」のページ参照)

卒業後の主な進路

奈良や自分が生まれ育った地域の文化・伝統に関心を持ち、それを継承したいという意欲を持つ中学・高校の美術・理科の教員、博物館・美術館の学芸員、普及員、保存修復技術者などが考えられます。

教員および専門分野(令和元年5月1日現在)

- ・金原 正明教授/環境考古学
 遺体分析による環境・生業の復元および材質同定
- ・山岸 公基教授/日本・東洋美術史
 ユーラシア美術史をふまえた日本古代・中世美術史の研究
- ・大山 明彦教授/絵画記録保存
 伝統的技法による彩色文様の模写・復元